

日本原子力学会 熱流動部会  
熱水力ロードマップ 安全評価 SWG/熱水力 SWG 合同幹事会 (第 2 回)  
熱水力 SWGH29-30 年度幹事会 (第 5 回)  
安全評価 SWGH29-30 年度幹事会 (第 3 回)  
議事録

日時：2018 年 9 月 6 日 9：00～11：00

場所：岡山大学津山キャンパス 一般教育棟 D 棟 D24 教室

参加者： 熱水力 SWG 委員 : 守田教授 (主査、九大)  
幹事 : 木藤 (日立)、西 (電中研)、上遠野 (日立) 上田 (MHI) 記  
安全評価 SWG 幹事 : 宇井 (電中研)、西田 (JAEA)、鈴木 (エネ総工研)、  
中村 (JAEA)、秦泉寺 (MHI) 記

#### 配布資料

- 資料 1： 熱水力ロードマップ 熱水力 SWG 第 2 回委員会 議事次第 (案)  
補足資料①： 第 1 回熱水力 SWG 委員会議事録 (2018 年 3 月 27 日実施)  
補足資料②： 第 3 回熱水力 SWG 幹事会 (第 1 回合同幹事会議事録 (2018 年 5 月 17 日実施))  
補足資料③： 第 4 回熱水力 SWG 幹事会議事録 (2018 年 7 月 3 日実施)  
補足資料④： 改訂前 旧「基盤技術」の表  
補足資料⑤： 改訂後 旧「基盤技術」の表  
補足資料⑥： 改訂前 旧「シビアアクシデント」の技術マップ  
補足資料⑦： 改訂後 旧「シビアアクシデント」の技術マップ  
補足資料⑧： 炉心損傷前まで拡大した例 旧「シビアアクシデント」の技術マップ  
資料 2： 安全評価 SWG における技術マップの改訂に関する方針 (案)

#### 経緯

- ◇ 第 1 回合同幹事会 (5/17) では、今年度の目標として、“安全評価 技術マップ” (解析コードの観点) と “基盤技術 技術マップ” (ニーズの観点) の 2 つを上位の技術マップに置き、その下位に “SA 技術マップ” (シーズ、個別現象の観点) を位置付け、安全評価 SWG 及び熱水力 SWG の相互にリンクをとれた構造を目指し、各 SWG にて並行して改訂作業を進める方針とした。その後、各 SWG にて技術マップの具体的な改訂方針の検討を重ねた結果、改訂版フォーマットのイメージが概ね出揃ってきたことから、各技術マップの相互関係を確認することを目的として、今回、第 2 回合同幹事会を開催することとした。

#### 議事概要

- ◇ 安全評価 SWG から提案された“安全評価 技術マップ”と熱水力 SWG から提案された“基盤技術 技術マップ”の両改訂案は、今回初めて出揃ったが、技術マップの網羅性と漏れ・重複のなさを目的として、ともに既設プラントの設置許可申請書で採用されている事象 (シーケンスグループ) に紐づけ

て熱水力現象を抽出している点で共通している。類似した体裁の表が並ぶと混乱しかねないという意見もあり、可能であれば同一の表形式に統合化されるのが望ましいことから、代表的な事象に対して“基盤技術 技術マップ”を“安全評価 技術マップ”に統合化する検討を試みることにした。

- ◇ “安全評価 技術マップ”と“基盤技術 技術マップ”を統合検討する際には、“安全評価 技術マップ”（ニーズ側、解析コード・安全対策設備と関連現象の観点）を上位の技術マップとし、その下位に“SA 技術マップ（＝旧 SA 技術マップ）”（シーズ側、基盤技術の観点）が置かれる形で纏める。
- ◇ “SA 技術マップ”についてはカバーする範囲を従前の炉心損傷後（シビアアクシデント）だけでなく炉心損傷前にも拡大し、基盤技術全般を網羅する内容とするため、今後は名称を“基盤技術 技術マップ”（以下、“基盤技術 技術マップ（改訂後）”）に変更する。（従来の方針通り）
- ◇ 今回の議論を踏まえ、安全評価 SWG にて“安全評価 技術マップ”のフォーマットを見直し、代表的な事象に対し、“安全評価 技術マップ”のイメージを作成する。次回（10 月頃を予定）の合同幹事会にて、“基盤技術 技術マップ（改訂後）”と併せて、主査の先生方（功刀先生、守田先生）にレビューしていただき、改訂方針についてご意見を伺うこととした。なお、代表的な事象としては MCCI に加え、もう 1 事象を選定することとしたい。具体的にはメールでのやり取りで決める。
- ◇ 次回合同幹事会（第 3 回）は、功刀先生、守田先生のご都合に合わせ、10 月中旬に開催予定。

以 上